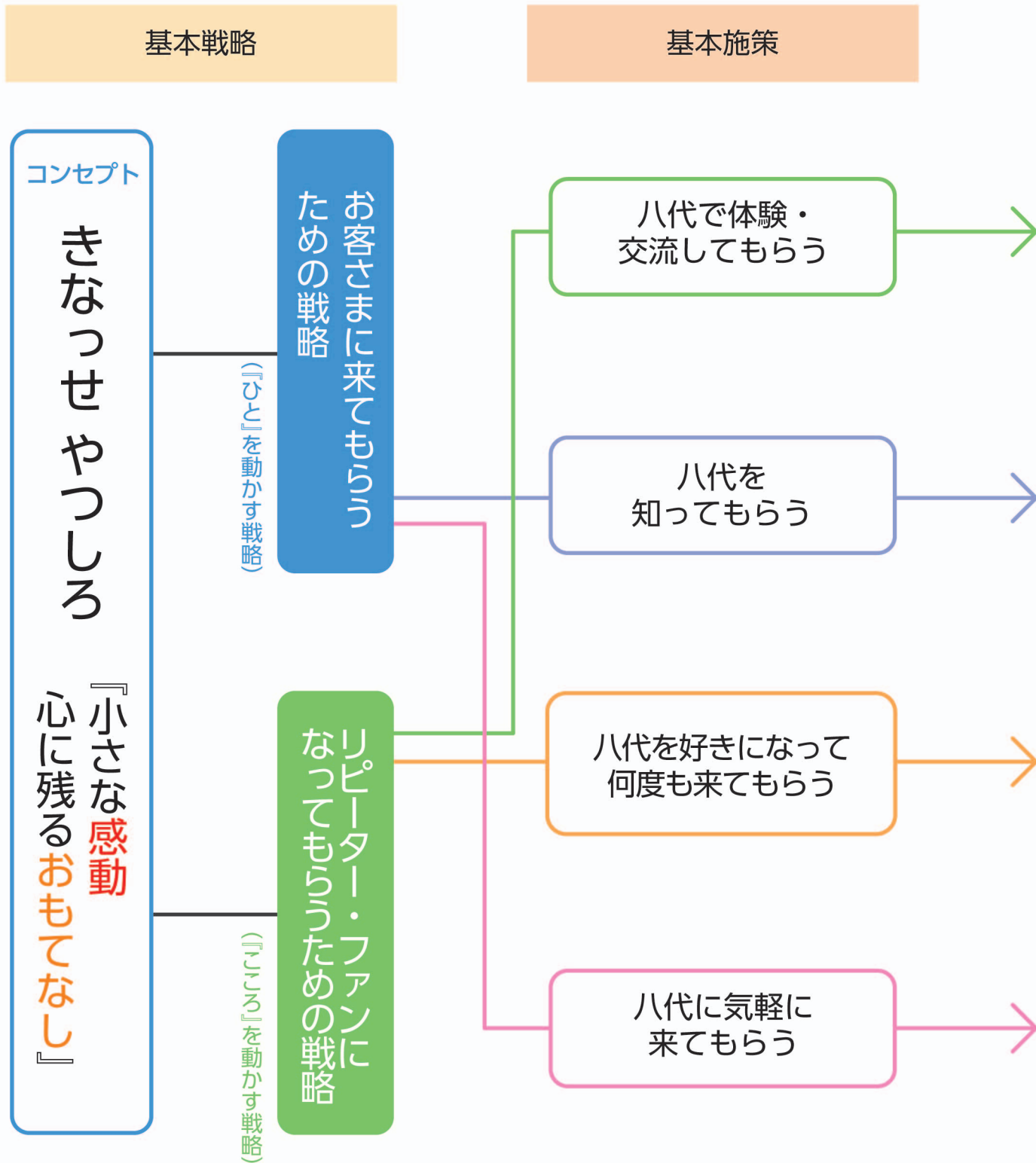


第3章

『施策の展開と重点プロジェクト』

1. 施策の体系



具体的施策

- ①八代版の体験・学習・交流のプログラムづくり
- ②八代の魅力を伝える人と組織の育成支援
- ③八代の魅力の再認識と発信
- ④スポーツや健康、産業などを活かした新たな魅力づくりの推進
- ⑤外国人が観光しやすい環境づくり
- ⑥山・里・海・川の魅力を活かした体験観光の推進
- ⑦もっと長く潜在してもらおうきっかけづくり

- ⑧『きなっせ やつしろ』キャンペーンの実施
- ⑨八代の魅力をわかりやすく伝える戦略づくり
- ⑩インターネットによる八代の魅力発信

- ⑪受入及び情報発信力の強化
- ⑫観光まちづくり組織の支援と活動推進
- ⑬食や特産品を活かした八代の魅力づくり
- ⑭心に残るおもてなしの向上
- ⑮広域観光の推進
- ⑯お客様の声を反映した観光まちづくりの推進

- ⑰交通アクセスの充実
- ⑱お客様と住民が交流する場の充実
- ⑲感動が生まれる景観づくり

重点プロジェクト

まちの魅力が光るプロジェクト

人と人が集う場である「まち」。まちの魅力を活かし、来訪者(お客様)にさらなる「まち」の魅力や回遊のための利便性を与えるような施策をすすめます。

地の恵みが光るプロジェクト

大地からの恵みともいえる「湯」と「海」と「川」。それらの豊富な資源とそこから生まれる生活文化を活かした施策をすすめます。

山里の魅力が光るプロジェクト

九州山地の山の資源を活かし、その歴史と自然、そこに暮らす人々の生活文化を活かした施策をすすめます。

2. 基本戦略

【1. 基本的な考え方】

本市の観光振興を考えるうえで、本市が一体となって総合力を発揮して、観光需要を積極的に創造し、持続可能なものとなるようにしなければなりません。そのためには、単なる集客（売り込み）中心の視点ではなく、観光マーケティングの視点に立った戦略の構築が必要になります。

どのような施策も、その根底にはマーケット（お客様）を常に意識した戦略に基づいた計画の推進が不可欠です。来訪者（お客様）の行動プロセスに沿って、観光振興における施策が「何を」「誰に」「どのように」コミュニケーション（価値共有化）をしようとする施策なのかこれを明確に把握し、組み立てない限り、効果的かつ効率的な計画の実践は図ることができません。

二つの戦略

観光振興を戦略的に実施するには、一般観光客といわれるビジターを誘客する戦略と、リピーターやファンとなるべき層を創造する戦略の二つが必要です。

戦略① お客様に来てもらうための戦略

情報発信におけるターゲットの明確化とターゲットに呼応した地域資源の整理。有効かつ効果的なプロモーション展開、インターネットによる情報発信力の強化。

戦略② リピーター・ファンになってもらうための戦略

八代の各地域で深い交流が生れることによって、感動や共感といった顧客満足を促し、リピーターや口コミを醸成させ、ゆっくりとファンになってもらうための戦略。

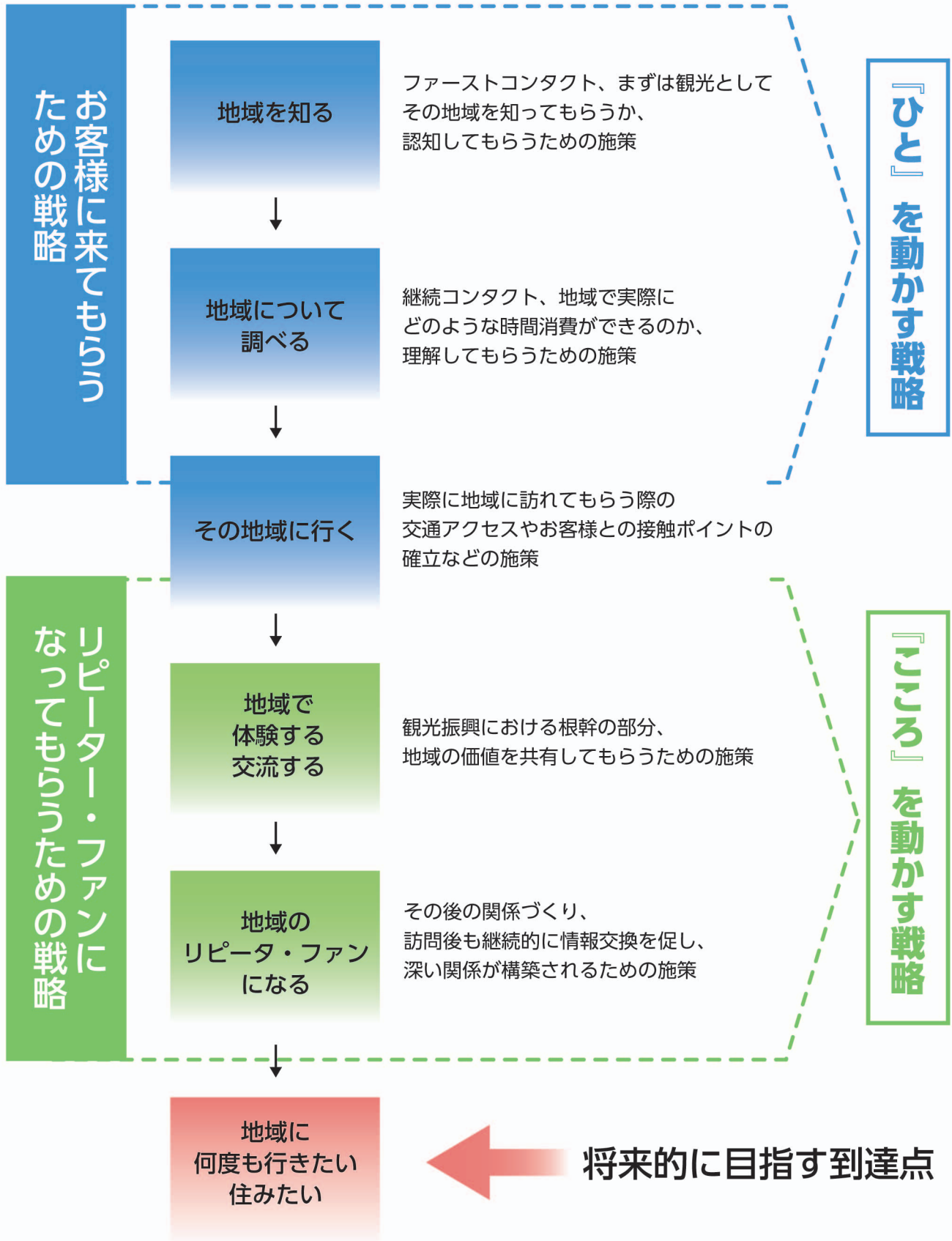
本市の取るべき戦略

本市の現状においては、まずは八代市としての観光（交流）による時間消費のイメージをマーケットに発信し、新たな来訪者（お客様）の増加を目指しつつ、来訪者（お客様）のリピーター・ファン化を図っていくことです。そのためには、まずは戦略②における、本市の各地域でどのような「感動」や「共感」を体験させるのか、整備・整理し、戦略①の誘客へつなげていかなければなりません。

そして、常に、戦略①と戦略②に連動性を持たせ、「PLAN（計画）」「DO（実証）」「CHECK（検証）」「ACTION（実践）」をすすめることで改善を図っていかなければなりません。

来訪者の行動パターン

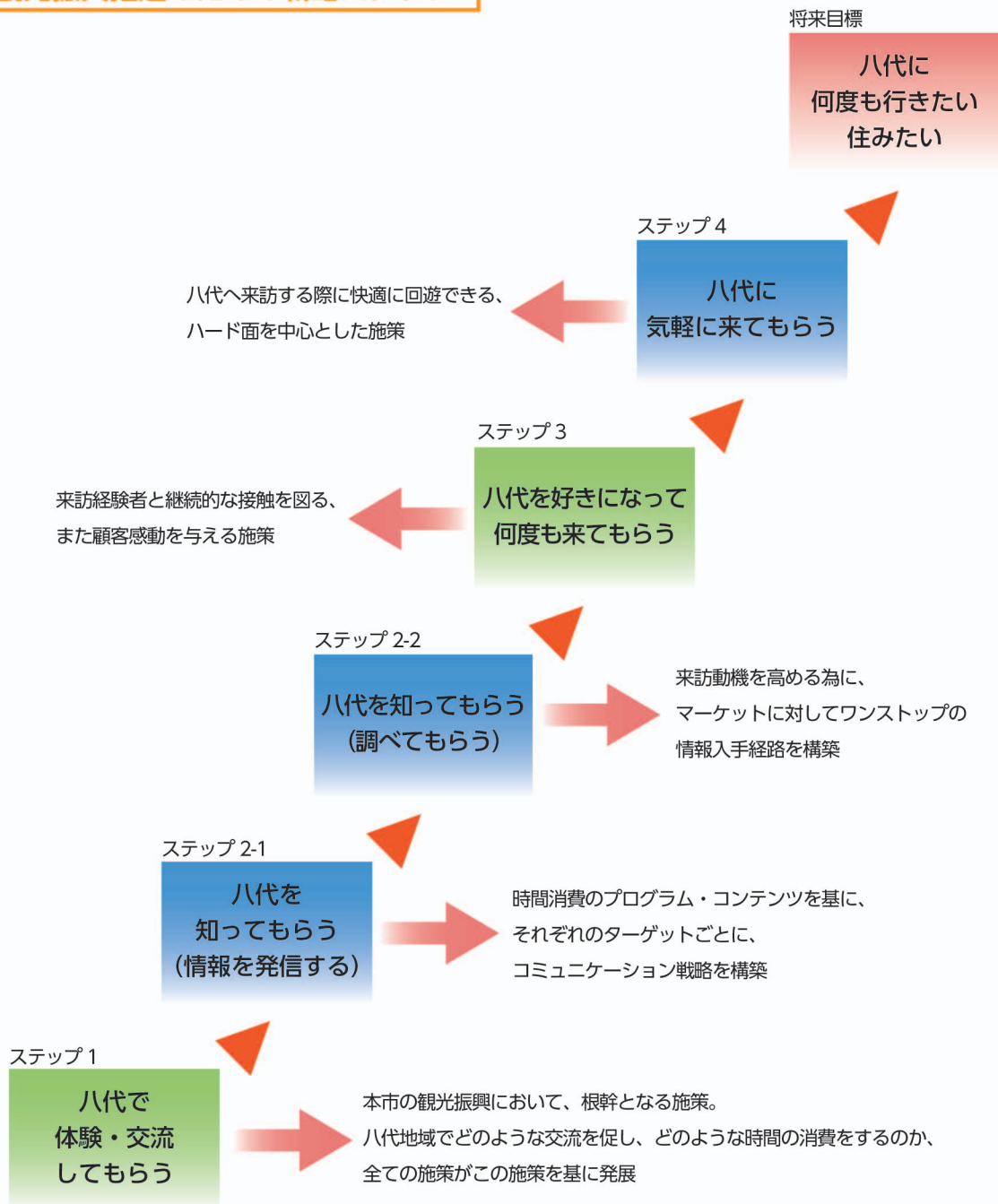
観光振興の推進においては、常に来訪者(お客様)を意識しその来訪行動に沿った展開が必要となります。ここでは、来訪行動を5つのプロセスに分け、それぞれにおいて必要となる施策について体系化しています。



【2. 戦略の構築】

前述した5つのプロセスは来訪行動をそのまま表したものです。本市の観光振興の推進のためにこれらのステップを施策の推進に必要な戦略ステップとして構築しなければなりません。まず必要となる施策はマーケットへ情報発信をするための中身づくりから始めなければなりません。

観光振興推進のための戦略ステップ



【3. コンセプト】

戦略の思想とも言うべきものが『コンセプト』です。この『コンセプト』から発想が広がり、地域の人たちが様々に解釈をして、行動へと結びつく、持続可能な観光振興によるまちづくりの原動力となっていきます。

また、マーケットに対しては、八代市の旅のイメージを知る・知らせるコミュニケーションの基礎となります。

コンセプト

きなっせ やつしろ

小さな**感動** 心に残る**おもてなし**

八代市は個性的で多様な地域です。それは小さくてもキラリと光る魅力です。

八代市では住民一人一人が心からのおもてなしを提供することで
感動と交流が生まれ、上質で充実した時間を過ごすことができます。

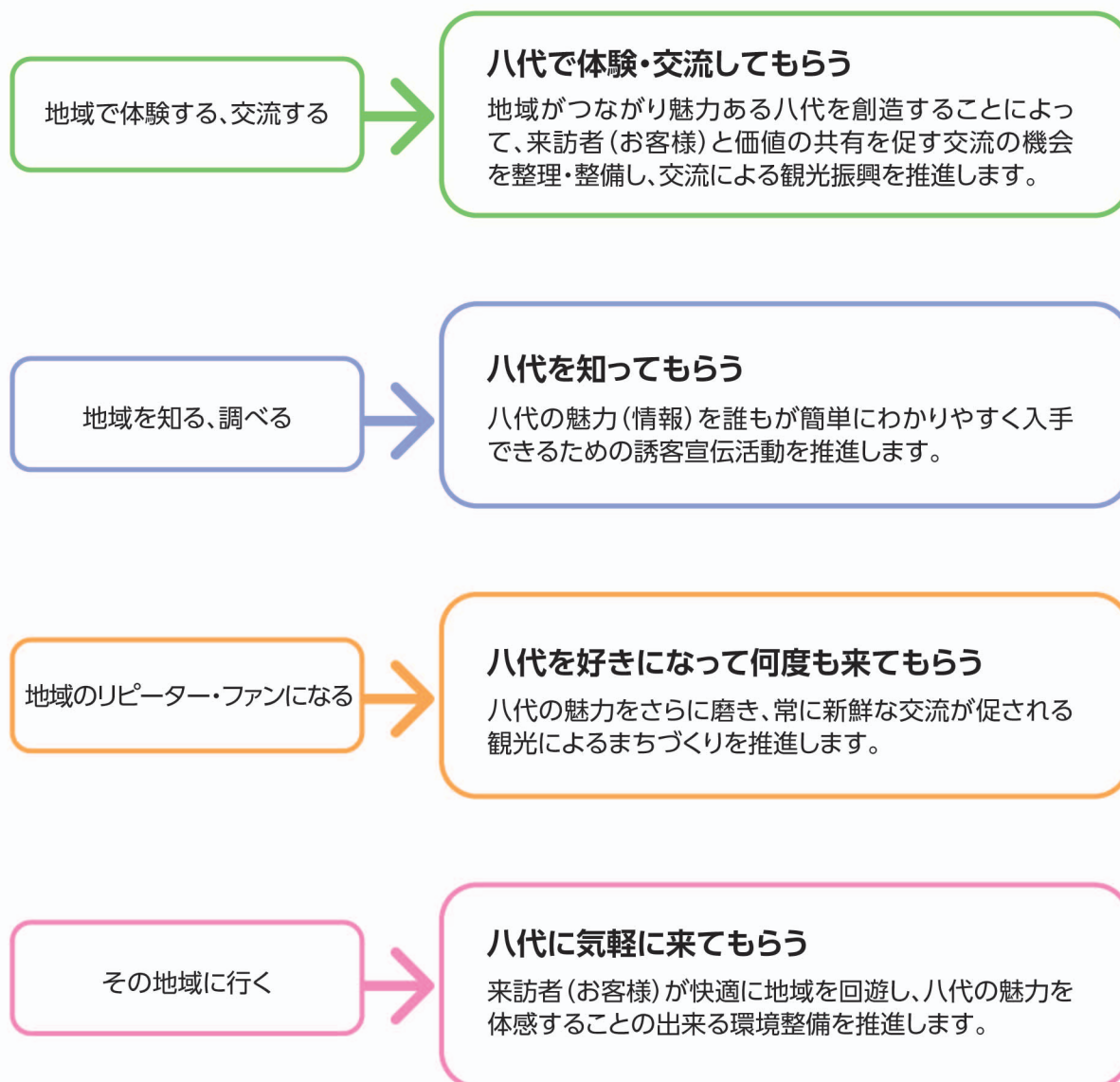
コンセプトとは

戦略構築の核となる基本的な概念。観光による交流を促進するための指標といえるもので、マーケットに対して、八代の観光交流を訴求する基本的な考え方のことです。

3. 基本施策

【1. 4つの柱】

来訪者（お客様）の消費行動に合わせた基本戦略に沿って、基本施策を実施します。



【2. 具体的な施策】

八代で体験・交流してもらおう

施策① 八代版の体験・学習・交流のプログラムづくり

本市が有している多様な資源を有機的に繋げ、魅力的なテーマに沿った、体験・学習・交流プログラムを策定します。地域の特性を活かした様々なメニューを整備しておくことで来訪促進を高めることができます。また、旅行会社への販売促進で旅行商品化を促すことも視野にいます。

【施策の内容】

- 来訪者（お客様）が自由に選択できる「着地型プログラム」（テーマ性をもった観光ルートや体験交流プログラム）を開発します。
- プログラムの体験内容、ルート、体験料金や受入期間など諸条件を網羅し、情報整理を行います。

【テーマ例】

- 『現代版湯治、開湯600年の日奈久温泉で湯ったりと心と体をリフレッシュする旅』
- 『かつて海外との交流の拠点だった、中世の歴史に触れる散策の旅』
- 『山岳原風景に触れる、九州の最奥端を体感する旅』

施策② 八代の魅力を伝える人と組織の育成支援

各地域にて既に活動している「八代史跡案内者の会」「日奈久温泉街案内人の会」「泉町観光ガイドインストラクター協会」「東陽石橋案内人の会」については、ガイド後継者の育成を行います。その他、ガイド組織が整備されていない地域については、ガイド団体の組織化を推進します。また来訪者（お客様）に対して、わかりやすい窓口づくりを更に強化するために情報経路を一本化します。

【施策の内容】

- 新規のガイド登録の推進及びガイド研修を開催します。
- ガイド組織を立ち上げます。
- ガイド申込みの統一した窓口を整備します。



施策③ 八代の魅力の再認識と発信

本市は多種多様な地域資源を有しています。そこにはそれぞれの物語があります。これら、歴史や文化、人など様々な資源をひもとして、魅力的なストーリーとしてまとめます。住民がうもれた地域の物語（魅力）を再認識し、地域に誇りを持って魅力を伝え、ストーリー性のある旅を提案することで誘客の促進を図ります。

【施策の内容】

- 物語素材の抽出と物語化を行います。
- 八代の地域物語として情報発信します。

施策④ スポーツや健康、産業などを活かした新たな魅力づくりの推進

スポーツ大会やスポーツ合宿の誘致、現代版の湯治を利用したヘルスツーリズム、近年注目を集めている産業観光など、本市におけるニューツーリズムについて推進します。

【施策の内容】

- 日奈久ドリームランドシー・湯・遊や各スポーツ施設などを活用した、スポーツ大会の誘致やスポーツ合宿の誘致促進を図ります。
- 日奈久温泉街における現代版湯治、五家荘地域のトレッキングなど地域の資源を活用したヘルスツーリズムの推進を図ります。
- 八代の五大工場などを中心とした産業観光の可能性を検討します。



施策⑤ 外国人が観光しやすい環境づくり

九州の中心部に位置する交通アクセスの利点を活かし、ヘルスツーリズム、環境観光、八代港を活用したクルーズ船の誘致などを視野にいた、東アジア地域を中心とした集客、さらに日奈久温泉や五家荘地域などの文化と自然を活用した欧米地域からの観光客の受入を推進します。

【施策の内容】

- 受入地域やスポットの整理・整備を図ります。
- 外国語に対応した情報発信ツールを整備します。
- 統一した情報発信、問合せ窓口を整備します。

施策⑥ 山・里・海・川の魅力を活かした体験観光の推進

農山村、漁村、そして二つの河川に囲まれた資源を活かし、また、農業・漁業・林業などの産業や川を使った生活体験を観光資源とするために、グリーンツーリズム及びブルーツーリズムの活動に加えて、リバーツーリズムの推進を図ります。

【施策の内容】

- 現在進めているグリーンツーリズム・ブルーツーリズム事業を更に推進します。
- 荒瀬ダム撤去とそれに伴う球磨川、平野の干潟など、体験型観光を促進するためのプログラム開発や受入体制の整備を行います。
- 舟出浮きについてはターゲットを明確にした体験交流のプログラム化を図ります。



施策⑦ もっと長く滞在してもらおうきっかけづくり

国の重要無形民俗文化財の指定を受けた「八代妙見祭」について伝統文化としての側面、観光交流としての側面の両面から資源の磨き上げを行います。また本市において大きな集客力のある「全国花火競技大会」や「五家荘の新緑・紅葉」などを機会と捉え、滞在時間の延長につながるような新たな展開をすすめます。

【施策の内容】

- 妙見祭における後継者育成の支援や観光交流イベントとしての新たな展開を図ります。
- 各イベント開催時に合わせた滞在時間延長の仕掛けづくりを行います。

八代を知ってもらう

施策⑧ 『きなっせ やつしろ』キャンペーンの実施

本市各地域の、観光施設(スポット)・旅館ホテル関係・交通機関・ガイド団体・地域住民・農商工関係者・その他民間企業や団体など、八代地域全体の誘客キャンペーンを開催し、本市全体としての観光誘客のイメージを発信するとともに、地域内の関係者の横のつながりを醸成します。

【施策の内容】

- キャンペーン実施のためのワーキング会議を開催します。
- 3カ年の実施を検討し、初年度は市民向け、2年目より外部からの誘客を目的としたキャンペーンを開催します。



施策⑨ 八代の魅力をわかりやすく伝える戦略づくり

本市の現状の課題の一つとして、八代市の観光のイメージがマーケットに対して伝わっていない現状があります。どんなに魅力的な地域の資源やプログラムがあっても多くの対象者に対して、認知させられなければ来訪者(お客様)や滞在時間の増加にはつながりません。

そのためには、コミュニケーション力が問われます。「どこに」「誰に」「何を」「どのような方法で」関係性の構築を行うのが必要となります。ここでいう伝える戦略とは、外部に対するものだけでなく、内部(地域住民)に対するものも含まれます。魅力ある観光地形成には、地域住民の参画や協力が不可欠です。

【施策の内容】

- 施策①の整備に伴い、「熊本都市圏・鹿児島都市圏」「福岡都市圏」「九州域内・域外」をターゲットとしたプロモーション戦略を構築します。
- プロモーションツール等(パンフレットやチラシ類)について、コンセプトに沿って再整備を行います。
- パブリシティの有効な活用として、テレビ、新聞、雑誌社と常に情報交換が出来る機関を設置します。また映画やドラマのロケなどの誘致の為にフィルムコミッションなどについても検討します。

施策⑩ インターネットによる八代の魅力発信

現在の「八代市」「八代よかご宣伝隊」にて立ち上げている観光に関するサイトについて統一を図ります。また、各地域で独自に立ち上げているサイトについても将来的には統合を検討し、八代市の観光におけるポータルサイトを構築します。

【施策の内容】

- ポータルサイトを立ち上げます。
- ブログやツイッターなどを積極的に活用し、ユーザーとの相互関係を構築します。

八代を好きになって何度も来てもらう

施策⑪ 受入及び情報発信力の強化

観光振興においては、行政や宿泊業者等の観光関係者のみならず、一般事業者やその他の団体なども深くかかわり、これらが一体となって取り組む統一的な推進体制・組織の構築が必要となります。八代よかところ宣伝隊などを中心として受入及び情報発信力の強化を図ります。

【施策の内容】

- 観光推進団体の連携を強化します。
- 八代よかところ宣伝隊の充実強化を図ります。

施策⑫ 観光まちづくり組織の支援と活動推進

観光まちづくりの推進・実践にあたっては、観光まちづくりへの関心、課題、将来ビジョンなどを共有した、交流の場＝コミュニティが重要です。現状では「日奈久まちづくり協議会」や「五家荘地域振興会」など一部の地域で実践コミュニティが活動していますが、各団体の自主的な活動が促される為のサポートや他地域における実践コミュニティづくりを推進します。また相互の活動のネットワーク化についても検討します。

【施策の内容】

- 既存の実践コミュニティについては、積極的な活動の支援を行います。

施策⑬ 食や特産品を活かした八代の魅力づくり

八代地域には「トマト」「晩白柚」「生姜」「い草」など全国に誇れる特産品を有しています。しかし地域の特産品として十分に活用されていない現状があります。そこで、農業、水産業、加工業や地場産業等を活用し、その作り手の思いやメッセージがマーケットに伝わるように、統一したブランド化を推進します。また、マーケットに対して八代の「食」としてわかりやすく魅力を発信するための地域グルメを開発します。

【施策の内容】

- 既存の特産品の整理及び未活用資源の抽出を行います。
- 八代グルメの開発を行います。

※八代ブランド戦略「八代ごろよか計画」との連携を図ります。



施策⑭ 心に残るおもてなしの向上

観光業はおもてなし産業といわれることに象徴されるように、来訪者（お客様）とのコミュニケーションが大きな鍵を握ります。つまり、来訪者（お客様）満足の追及がリピーターの創出につながります。今後の観光によるまちづくりを推進する上で、集客の面ばかりに注視し、そこにおもなしの心が醸成されていないと、持続的な集客には結びつきません。またこれまで行ってきたおもてなしの取り組みをもう一度点検し、本当の満足とは何かもう一度、自己意識の変革をしなければなりません。

そこで、観光関係者、交通関係従事者、地域住民などが一体となって観光客を心からおもてなしできるように、おもてなし向上に向けた取り組みをすすめます。

【施策の内容】

- 観光関係者や交通関係従事者、地域住民を対象とした、接客やマナー、コミュニケーション能力、快適な空間設計などおもてなし向上研修を実施します。



施策⑮ 広域観光の推進

現在の観光振興を考える上で、市域を超えた周辺自治体との連携は不可欠で、広域連携による観光振興の取り組みが求められます。本市においても九州の中心という立地を活かして周辺自治体との連携も視野にいれた観光ルート開発や共同の誘客活動、情報発信の推進を図ります。

【施策の内容】

- 肥薩おれんじ鉄道沿線の連携を図ります。（芦北、水俣、北薩地域）
- 本市を中心とした横軸の連携を図ります。（人吉・球磨地域、天草地域、宮崎県）
- 九州中央山地圏の連携を図ります。

施策⑯ お客様の声を反映した観光まちづくりの推進

持続可能な観光地づくりには常に実施施策に対する検証が欠かせません。来訪者（お客様）の声を耳を傾け、展開する事業がニーズに則しているかを把握しなければなりません。定期的に来訪者（お客様）への調査を行い、事業評価の参考とするとともに、抽出された意見は観光関係者や地域住民へ情報提供し、事業展開の検証・改善を促進するために情報の共有化を図ります。

【施策の内容】

- 期間、調査箇所を固定したモニタリング調査を実施します。

八代に気軽に来てもらう

施策⑰ 交通アクセスの充実

九州新幹線全線開業により、JR新八代駅を起点とした、交通アクセスの充実を図り、来訪者（お客様）が快適に回遊できる環境整備を推進します。

【施策の内容】

- 定期観光バスの運行を検討します。
- 観光タクシー事業の事業化を検討します。



施策⑱ お客様と住民が交流する場の充実

「八代市観光物産案内所」「八代よかところ物産館」「道の駅さかもと館」「ふれあいセンターいずみ」など情報発信や特産品を販売する拠点を活用し、来訪者（お客様）と住民が交流する場の拡充を図ります。

【施策の内容】

- 各地域の特産品や工芸品の体験工房や伝統芸能を披露するミニイベントなど、来訪者（お客様）との交流を促すための既存施設の活用を検討します。
- 既存施設の適切な維持管理を行います。



施策⑲ 感動が生まれる景観づくり

現在、林業の衰退や耕作放棄などによって、魅力ある自然景観が失われつつあります。「癒し」や「スローライフ」が求められるなかで、棚田や球磨川などの自然景観も十分に観光資源となりえます。

また、旧薩摩街道の宿場町であり、木造建築が残っている日奈久地域についても、その中心部がシャッター通りとなり、古い趣が失われつつあります。このような自然景観や街並み景観についても観光の視点から取り組みをすすめます。

【施策の内容】

- 地域の実践コミュニティと連携し、自然景観の保全や街並み景観の整備についての意識を高めます。

4. 成果指標

施策の推進にあたっては、7カ年の推進スケジュールにより、成果指標の達成を目指します。

【1. 現状】

現在の本市における観光入込客数は、年間約220万6千人です。(平成21年)入込客数は増加傾向にある一方で、宿泊客や県外からの日帰り客は横ばい傾向にあります。

【2. 成果指標】

本計画を推進することによって、7年後の平成29年には延べ244万3千人の観光入込客数を目指します。

平成 21 年の観光入込客数 2,206,341 人	→	平成 29 年の観光入込客数 2,443,000 人
-------------------------------	---	--------------------------------------

本指標を達成するために、本市全体の宿泊客数を平成21年より20%の増加、日帰り客数を平成21年より10%の増加を図ります。

平成 21 年の宿泊客数 175,598 人	→	平成 29 年の宿泊客数 210,000 人
平成 21 年の日帰り客数 2,030,743 人	→	平成 29 年の日帰り客数 2,233,000 人

本計画の推進にあたっては、平成23年度に実践計画として施策の展開イメージなどをまとめ、平成26年度を目途に計画の推進状況、観光マーケットなどの社会情勢なども参照しながら、計画の検証を行います。



5. 重点プロジェクト

本市は平成17年の合併により、地勢的に広範囲な市域を形成し、地域ごとに様々な魅力や特色にあふれています。また観光交流についても、以前から観光による集客を行ってきた地域からこれから観光による交流を促進していく必要がある地域まで地域ごとに状況は様々です。本計画の推進においては、それぞれの地域の特性や現状を活かした観光振興をすすめていくことが必要です。

このため、基本方針から導き出した施策について、それぞれの地域の魅力を光らせる重点プロジェクトを設け施策の推進を図ります。

そして、地域の光った魅力をつなげることで小さな感動が生れる八代地域の形成へ展開していきます。



重点プロジェクト①

■まちの魅力が光るプロジェクト

人と人が集う場である「まち」。まちの魅力を活かし、来訪者に、さらなる「まち」の魅力や回遊のための利便性を与えるような施策をすすめます。



本市の交通・産業・生活拠点でもある市中心部は、いにしえより交通の要所として栄え、現在も2011年3月に全線開業した九州新幹線をはじめ、肥薩おれんじ鉄道、九州縦貫自動車道、国の重要港湾である八代港など人とモノの交流拠点として優位性があります。また、松井家の城下町としての歴史や文化をはじめとした様々な魅力を有しています。

『いにしえからの交流拠点、小さな発見と感動に触れる旅』

(1) 八代中心部の体験・学習・交流のプログラムづくり

八代中心部では現在、「八代史跡案内者の会」により歴史散策を実施しています。その他に、歴史や伝統文化、生活文化を体験することができるプログラムの整備を行います。

(2) スポーツや健康、産業などを活かした新たな魅力づくりの推進

スポーツ大会、スポーツ合宿の受入や五大工場を中心とした産業観光などのニューツーリズムについて検討するとともに、舟出浮きについては、各年齢層ごとにプログラムを整備し、それぞれのターゲットに対して魅力を訴求する体験型プログラムづくりを行います。

(3) 外国人が観光しやすい環境づくり

八代中心部の歴史や文化などを活用した訪日外国人の受入を推進するとともに、将来的には八代港を活用した大型クルーズ船などの誘致及び観光のルート化を検討します。

(4) 食や特産品を活かした八代の魅力づくり

八代地域の特産品を活かした、八代市のご当地グルメを開発します。

(5) 八代の魅力の再認識と発信

八代中心部にある、歴史とそれに培われた生活文化など、八代中心部の地域物語を作成発信していきます。

(6) 心に残るおもてなしの向上

観光関係者、交通関係従事者、地域住民などが一体となって、本当の満足とは何かを追究することによっておもてなしの向上を図ります。

(7) 千丁・鏡地域との連携

千丁・鏡地域の有する資源（い草やそれを活用した商品、干拓の歴史）などとの連携について検討します。



重点プロジェクト②

■地の恵みが光るプロジェクト

大地からの恵みともいえる「湯」と「海」と「川」。それら豊富な資源とそこから生まれる生活文化を活かした施策をすすめます。



八代海に面し、開湯600年の歴史を誇る、かつては湯治場として栄えた日奈久温泉は、古くから外との交流を行ってきた地域です。そこには、決して大きな観光施設などはありませんが、地域全体が歴史と温泉文化に溢れています。そこはまさに普段着感覚で都会の喧騒から開放され癒される地域空間です。

『ふらっと訪れたいくなるような普段着の旅』

(1) 日奈久地域の体験・学習・交流のプログラムづくり

日奈久温泉では現在、ボランティアガイドによるまち歩きツアー「路地裏ツーリズム」を実施しています。それに加え、海そして山を活かした体験型のプログラム、現代版の湯治プログラムなどの整備を行います。

(2) 山・里・海・川の魅力を活かした日奈久の魅力づくり

地元農産物や食をテーマとしたグリーンツーリズム事業を推進するとともに、日奈久港を活用したブルーツーリズム事業についても推進を図ります。

(3) 日奈久の魅力を伝える人と組織の育成支援

現在、日奈久温泉には「日奈久温泉街案内人の会」がガイド組織として活動していますが、会員の高齢化など人員不足状態にあります。今後の継続的な受入実施のために、新たな案内人の育成を行います。

(4) 観光まちづくり組織の支援と活動推進

現在、日奈久地域で活動をしている各種団体間の活動を支援するとともに、各団体の情報の共有化を図り、日奈久地域が一体となった観光と交流によるまちづくりを推進する実践コミュニティの活動の充実を図ります。

(5) 食や特産品を活かした日奈久の魅力づくり

日奈久地域は八代海に面し干拓地が広がりその背後には山々がそびえています。日奈久温泉の名物ちくわとともに海の幸・山の幸を活かした地域の食の開発を推進します。

(6) 日奈久の魅力の再認識と発信

日奈久地域にある、歴史とそれに培われた生活文化など、日奈久地域の物語を発信していきます。

(7) 心に残るおもてなしの向上

観光関係者、交通関係従事者、地域住民などが一体となって、本当の満足とは何かを追及することによっておもてなしの向上を図ります。

(8) 坂本地域との連携

坂本地域の有する資源（温泉や荒瀬ダム、球磨川を活用したリバーツーリズム）などとの連携について検討します。



重点プロジェクト③

■山里の魅力が光るプロジェクト

九州山地の山の資源を活かし、その歴史と自然、そこに暮らす人々の生活文化を活かした施策をすすめます。



菅原家・平家の隠れ里として九州山地の奥深い山々に囲まれた泉・五家荘地域には、奥深い山里で脈々と受け継がれてきた風土と生活文化、そして厳しい生活環境で暮らす人たちのホンモノの姿があります。決して便利で快適ではないけれどゆったりと流れる時間、そこでは純朴でまっすぐな人たちの営みに触れることができます。

『山深い郷の歴史と生活文化そして人に触れるスローな旅』

(1) 泉・五家荘地域の体験・学習・交流のプログラムづくり

現在、泉・五家荘地域ではトレッキングや自然体験、紅葉など自然にふれる観光の受入を推進しています。それに加え、五家荘地域の生活文化などを活かした体験型のプログラムの整備を行います。

(2) 交通アクセスの充実

JR新八代駅や八代中心部からの定期路線の整備や事前予約制の周遊バスなどの交通アクセスの充実を図ります。

(3) 外国人が観光しやすい環境づくり

欧米地域からの観光客の受入のために、おもてなしや言語対応研修などを行います。

(4) 食や特産品を活かした泉・五家荘の魅力づくり

泉地域で推進している地域特産品のブランド化を支援するとともに、五家荘地域におけるご当地グルメの開発を行います。

(5) 観光まちづくり組織の支援と活動推進

五家荘地域で現在活動中の、泉町ガイド・インストラクター協会や五家荘地域振興会などの活動を支援するとともに、同地域の観光振興における実践コミュニティの活動充実を図ります。

(6) 泉・五家荘地域の魅力の再発見と発信

泉・五家荘地域にある、歴史とそれに培われた生活文化など、泉・五家荘の地域物語を作成発信します。

(7) 心に残るおもてなしの向上

観光関係者、交通関係従事者、地域住民などが一体となって、本当の満足とは何かを追究することによっておもてなしの向上を図ります。

(8) 東陽地域との連携

東陽地域の有する資源(しょうがやそれを活用した商品、石橋の歴史、温泉、棚田の景観)などとの連携について検討します。

